

本年の労働運動界

山川 豊彦

一九二二年の世界

山名義鶴

本年の労働運動界

山川 均

大正十年は失業問題に対する全國労働團體の聯合協議會を以つて閉ぢ、十一年の労働運動界は、この協議會の三ヶ條の決議に基づく新運動を以つて開かれた。この運動は不幸にして大きな成果を見なかつたが、しかも大正十一年の労働運動の特徴は、この運動のうちに前兆せられてゐた。

大正九年に經濟界が不況期に入ると、労働運動も漸次に攻撃戦から防衛戦に轉じて來た。大正九年から十年になるごと、此の形勢は益々著しくなつた。資本家階級は、五ヶ年間の破壊的戰争の結果たる經濟界の恐慌、不景氣の損失を、悉く労働階級に負担させようとして、信銀の減額、生産の制限、工場閉鎖、工賃削減、工賃首減を以つて、労働階級に新しい戰ひを挑んで來た。歐羅巴の資本主義の大破綻の迫るにつれ、其影響を受けた日本の資本家階級も、益々攻勢的になつて來た。大正十一年の労働界は此の戰爭の持越しであるごと同時に、この年に至つて、戰ひは愈々白熱化した。之は大正十一年に於ける、主なる労働爭議を見れば直ぐ分かる。大正十一年の前半季に於ける労働爭議は、殆んど造船業、軍需品に關係ある官業労働者、鐵工及び機械工に限られてゐた。下半